

東北大学知のフォーラム「未来社会デザイン塾」 一人が集い・共に学び・創造するー

東北大学知のフォーラムでは、「未来社会デザイン塾」を通じて、仙台市や東北地方の地域特性を生かし、東日本大震災からの復興を基礎とした「地域の未来づくり」をテーマにした教育プログラムを実施してきました。

このプロジェクトでは、大学、県や市町村、企業、そして市民など多様な人々が交流しながら、社会課題について共に学び、議論を重ねることで、20年あるいは30年先の未来社会をデザインすることを目指します。東日本大震災の復興活動から得た学びを基に、「地域の未来づくり」に取り組みます。さまざまなステークホルダーが議論を重ねることで、新たなイノベーションの創出が期待されます。

東北大学知のフォーラム「未来社会デザイン塾」とは

未来社会デザイン塾は、多様な人々が交流しながら、社会課題について共に学び合い、議論を重ねることで、20年あるいは30年先の未来社会をデザインすることを目指すプログラムである。

参加対象
01

大学

社会課題の解決力や実践力を学んでみたい
学部生・（メンターとして）大学院生・研究者

参加対象
02

地域

官庁や県・市、地域イノベーター、ジャーナリストなど、
実際に社会課題へ取り組まれている方

参加対象
03

企業

- 持続可能社会を企業の立場から考えたい
- 社会課題の解決を通じて新規事業のシーズ/アイデアを得たいと考えている企業の方

参加対象
04

市民

社会課題に関心のある一般の方

社会的貢献のためのイノベーション創出

TOHOKU FORUM for CREATIVITY

2024年度は以下の3つのテーマを取り上げます。

テーマ1：「デジタル×持続可能未来社会のデザイン：都市における持続可能性」

テーマ2：「海洋と人の共生を目指す未来社会のデザイン」

テーマ3：「人生100年時代の未来社会のデザイン」

テーマ1：「デジタル×持続可能未来社会のデザイン：都市における持続可能性」

「持続可能性」というと、地球規模や農村・漁村のことを考えがちですが、多くの人が暮らす都市も持続可能性に大きな影響を与えています。都市には動植物が住み、緑地や川があります。都市の自然やその周辺の自然環境に目を向けることが重要です。

さらに、自動車中心の郊外型ライフスタイルと、集合住宅や公共交通機関を利用する都市型

ライフスタイルのどちらが地球の持続可能性にとって望ましいのかを考える必要があります。

このテーマでは、さまざまな角度から都市における持続可能性について考えます。

2024 年度は、以下に焦点を当てて討議を行います。

- 未来の住宅と交通
- 未来都市における自然
- 未来の快適な都市生活

テーマ 2：「海洋と人の共生を目指す未来社会のデザイン」

海と人が共生する社会を実現するために、重要課題の整理とその解決策について議論します。

持続可能な海洋と人との共生を目指すにあたり、まず海洋汚染の防止と再生という課題をクリアしなければなりません。具体的には、プラスチック廃棄物の削減や有害物質の管理が必要です。さらに、持続可能な漁業を実現するためには、過剰漁獲の防止や科学的データに基づく漁業管理が必要となります。

再生可能エネルギーの活用により、化石燃料への依存を減らし、海洋環境の保護を目指すこと、さらには、海洋教育の強化と国際協力の推進も不可欠です。これらの議論を通じて、実践可能な未来社会を考えます。

2024 年度は、以下に焦点を当てて討議を行います。

- 海洋開発と海洋環境の保全と調和
- 海洋産業の発展のための政策（ブルーファイナンス）
- 沿岸海洋地域での街づくり

テーマ 3：「人生 100 年時代の未来社会のデザイン」

超高齢化が進み、世界一の長寿社会を迎えた日本では、年齢に関係なく活躍でき、安心して暮らせる社会をつくることが大切です。社会のあり方や個人のワークライフバランスが見直される中で、これからの時代に注目されている考え方が「ウェルビーイング (Well-being)」です。

「ウェルビーイング」の起源は、1946 年に定められた世界保健機関（WHO）憲章に遡ります。この憲章では、健康とは「肉体的にも精神的にも、そして社会的にも完全に満たされた（＝ウェルビーイング）状態」のこととされています。つまり、身体だけでなく、心や社会のあり方も含めて健やかであることを意味します。

本テーマでは、ウェルビーイングな未来社会をどのように実現するかを討議します。

2024 年度は、以下に焦点を当てて討議を行います。

- 長寿社会における課題と解決
- ウェルビーイングな社会の実現